

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 884号 :平成24年3月12日

□ 2月々例山行：飯能回廊探索（第2回）

見晴らしピークを「燧山（ひうちやま）」と命名

- 実施日：平成24年2月26日(日)晴れ
- 参加者：瀬川、室井・惟知、高橋、朝倉、高田 計6名
- コース：飯能駅 10:05→八耳堂 10:50→龍崖山 11:10→燧山(昼食) 12:45→あさひ山 15:00→美杉台→飯能駅北口(反省会) 15:30→17:00(解散)

○ルート of 修正

- ・前回11月の下見調査では、あさひ山から龍崖山へ最短ルート開拓を目指したが、県道横断は見通し悪く危険。北側迂回する既存ルートで横断し、美杉台側のルート開拓は不要とした。

○飯能駅をスタート

- ・当初予定日を1日遅延し、東京マラソン開催の日曜日のしたところ好天に恵まれた。飯能駅南口から一路龍崖山登山口の八耳堂へ歩く。ここで、入山準備、新人会員高橋氏の歓迎も兼ねるが、甘やかすことなく水の取水を指示。
- ・軍太利神社裏山を抜け龍崖山の登りに取り付くが、この急勾配登り坂はステップがないから結構キツイ。多分、奥武蔵界限で伊豆ヶ岳の男坂に続く2番目にキツイ登りだろう。

○龍崖山山頂整備

- ・龍崖山につくと地元ボランティア約10名がチェーンソーを使って、龍崖山山頂周りを整備していた。東京スカイツリーも見える。すこぶる眺望が良くなっていた。



○龍崖山ルート整備

- ・前回探索で目印を付けたルートを再度ナタで切り進みつつルートの再確認。また、急斜面は木こり道の折り返しルートに修正、足跡もない部分はスコップでステップもつけた。不完全なステップであるが目印もあり、まあ迷うことなく歩けるようになった。惟知君(高3)は、すっかりナタ振りのコツを習得、良い体験学習となったそうだ。



○燧山（ひうちやま）受命板設置工事

- ・前回調査での瀬川氏の一言に室井氏の閃きを加え、見晴らし良いピークに名をつけた。
- ・位置選定、試掘、位置変更を経て室井氏特製受命板をコンクリートで固めるが、ウンチクが得意な土木技術者達がああでもないこうでもないといつつ、砂利、セメント、水を配合しコンクリートで固め、更に小岩で被い岩稜に馴染ませた。



左から： 瀬川、室井惟知・室井、朝倉、高田、新高橋

燧山（ひうちやま）の由来

ある大雨降る日に、この地（標高 234.2m）を訪れた初老の旅人が霧中に広がる水面大地を見て「まるで尾瀬ヶ原のようだ。」と発した。尾瀬ヶ原に聳え立つ 燧ヶ岳（標高 2346.2m）は、深田久弥の日本百名山に選ばれた名峰であり、その 1/10 の高さの縁もあり この地を燧山と命名した。

【解説】

見下ろした大地は、工場などが立つ工業用地となるが、造成工事のため大きな敷地であるが周囲に小さな土堰堤が作られ、大雨が降っても造成した斜面が崩れないようにされている。このため、大雨が降ると一時的に雨が溜まり、浅い水面ができることがある。旅人はその水面を見て、湿原尾瀬を想像したのだろう。この情景は、工場が立てば想像するのは困難である。「その後、旅人が「(燧岳)おぜがはら見晴らし台」が、実は「大河原(おおがはら)見晴らし台」だったと気が付いたかどうかは、今も謎となっている。」

- ・あさひ山を経由しバスで出発地点に戻り、反省会終了後解散となりました。(高田記)